

小学生(高学年)向け



『アゲイン』

あんずゆき／作 丹下京子／絵
フレーベル館 ¥1,400 (税別)

小学校6年生のアオイは、クラスメイトの八神さんから子ども食堂に誘われ、「子どもはタダだよ」と言われ驚く。フードロスが問題視されている反面、フードバンクや子ども食堂に支援を求めている人も多いことを知り考えるきっかけとなる。



『オリヒメ』

吉藤オリィ／著 加藤悦子／文
子どもの未来社 ¥1,500 (税別)

ロボットコミュニケーターの著者は、操作する人自身の分身となるロボット「オリヒメ」を開発した。病気や障害で外出が難しい人が、インターネットを介してオリヒメを操作し、多様な働き方をしている様子を紹介する。



『カタリン・カリコ』

増田ユリヤ／著
ポプラ社 ¥1,500 (税別)

2023年ノーベル生理学・医学賞を受賞したカタリン・カリコ博士。「病気に苦しむ人を助けたい」という信念で40年続けた mRNA の研究が、新型コロナウイルスワクチンの接種を可能にし、世界を救った。ワクチン開発と波乱万丈な彼女の半生を描く伝記。



『給食が教えてくれたこと』

松丸栗／著
くもん出版 ¥1,400 (税別)

「給食にはむだなものなんてない」、食べたなら「きつ」といふことが起きるよ」と栄養士に言われ、好き嫌が多い少年は一口食べてみた。すると、鉄棒が成功し、算数のテストが良い点に。少年は小学校の栄養士になり、給食日本一を目指し奮闘する。



『なんてくさいんだ!』

コリン・ペフ／文 ナンシー・カーペンター／絵 金原瑞人／訳
あかつき教育図書 ¥1,800 (税別)

イギリスのテムズ川は、かつてトイレの排水が流され、非常に臭く汚かった。コレラ流行を防ぐため、トイレの排水を集める新しい下水道を作り、川をきれいにして多くの命を救った土木技師、ジョゼフ・バザルジエットの活躍を描いた絵本。



『錦鯉を創る』

松沢陽士／写真と文
小学館 ¥1,300 (税別)

新潟発、世界を魅了する錦鯉の歴史と美をひも解く写真絵本。4年間の密着取材から生まれた本書は、美しい錦鯉が山間の集落でどのように育つのかや、新品种の創造にける人々の情熱を、豊富な写真で紹介する。



『人間になりたかった犬』

今西乃子／作 福田岩緒／絵
新日本出版社 ¥1,500 (税別)

おいしいものが食べられる人間に生まれ変わりたいと願う犬のシロは、生まれ変わりの条件「人間を救った犬」になる修行のため、昼間だけ少年に化け史郎と名乗る。学校に通い始めたシロは、友達になった春樹の悩み、苦しみを知り……。



『ぼくは地球を守りたい』

村木風海／著
岩崎書店 ¥1,400 (税別)

山梨県出身の著者は、小学生で「火星に行きたい!」という夢を持ち、二酸化炭素から食べ物を作る実験をした。化学者になった現在も続けている二酸化炭素の研究をわかりやすく紹介。コラムには簡単にできる実験があり、化学が楽しくなる一冊。

その他のおすすめの本

『命をつなぐセラピードッグ物語』

大木トオル／著 講談社 ¥1,500 (税別)

『海にしずんだクジラ』

メリッサ・スチュワート／文 ロブ・ダンラヴィ／絵 千葉茂樹／訳 藤原義弘／日本語版監修 B.L出版 ¥1,800 (税別)

『エール! 主人公なぼくら』

室賀理江／作 ふるり／絵 文研出版 ¥1,500 (税別)

『かげふみ』

朽木祥／作 網中いづる／挿画 光村図書出版 ¥1,600 (税別)

『金色の羽でとべ』

高田由紀子／作 小学館 ¥1,400 (税別)

『ご当地珍名見つけ隊』

高信幸男／著 恒春閣 ¥1,100 (税別)

『だれもみえない教室で』

工藤純子／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『図書館がくれた宝物』

ケイト・アルバス／作 榎田理絵／訳 徳間書店 ¥1,900 (税別)

『なんで、せんそうおわらないの?』

NHK ネットワーク報道部／編 青志社 ¥1,300 (税別)

『はじまりは一冊の本!』

濱野京子／作 森川泉／絵 あかね書房 ¥1,300 (税別)

『ひと箱本屋とひみつの友だち』

赤羽じゅんこ／作 はらぐちあつこ／絵 さ・え・ら書房 ¥1,500 (税別)

『ぼくが選ぶぼくのいる場所』

吉富多美／作 金の星社 ¥1,400 (税別)